

【防災メモ】

～気象庁が発表する地震情報について～

気象庁は24時間体制で地震・津波を監視しています。地震が発生した場合は、収集したデータをもとに、防災対応の初動に迅速に活用できるよう、地震に関する情報を作成し発表しています。地震情報の種類と発表するタイミングについては以下のとおりです。

地震発生！

約数秒～

「緊急地震速報(警報)」

最大震度が5弱以上または長周期地震動階級3以上と予想された場合に、地震の発生時刻、地震の発生場所(震源)、地震の規模(マグニチュード)、震度4以上または長周期地震動階級3以上が予想される地域名^{※1}を発表。

なお、緊急地震速報には警報のほかに予報がある^{※2}。

約1分半～

「震度速報」

震度3以上を観測した場合に、観測した地域名^{※1}と地震の揺れの検知時刻を速報。

約3分

「震源に関する情報」

震度3以上を観測した地震で、津波による災害のおそれがないと予想される場合に、「津波の心配がない」または「若干の海面変動があるかもしれないが被害の心配はない」旨を付加して、震源やマグニチュードを発表。

約5分

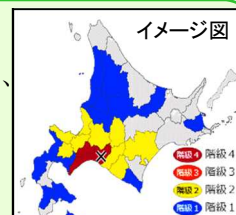
「震源・震度情報」

震度1以上を観測した場合や津波警報・注意報・津波予報、緊急地震速報(警報)を発表した場合に、震源やマグニチュード、震度1以上を観測した地点と観測した震度、震度3以上を観測した地域名^{※1}と市町村毎の観測した震度を発表。震度5弱以上と考えられる地域で震度を入手していない地点がある場合、その市町村と地点名を発表。

約10分

「長周期地震動に関する観測情報」

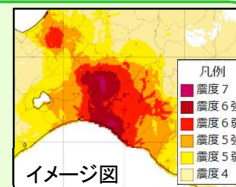
震度1以上を観測した地震のうち、長周期地震動階級1以上を観測した場合に、地域ごとの震度の最大値・長周期地震動階級(高層ビルなどでの長周期地震動による揺れの大きさの指標)の最大値のほか、個別の観測点毎に、長周期地震動階級や長周期地震動の周期別階級等を発表。



約15分

「推計震度分布図」

震度5弱以上を観測した場合に、観測した各地の震度データをもとに250m四方ごとに推計した震度(震度4以上)を図情報として発表し、気象庁ホームページに掲載。



「遠地地震に関する情報」

国外でマグニチュード7.0以上の地震や、著しい被害が発生する可能性のある地域で規模の大きな地震を観測した場合などに、地震の発生時刻、震源やマグニチュード、日本や国外への津波の影響などについて地震発生から30分程度で発表。(国外で発生した大規模噴火を覚知した場合にも発表することがあり、その場合は噴火発生後1時間半～2時間程度で発表。)

※1 緊急地震速報や震度情報で用いる区域の名称
<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/joho/shindo-name.html>

※2 緊急地震速報(警報)及び(予報)について
<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/nc/shikumi/shousai.html>